産業経済常任委員会研修レポート

研修日程　平成19年5月6日～9日
研 修 先　島根県海士町・奥出雲町

自立を目指し民間企業が農業進出

海士町では、民間企業が農業参入し(有)隠岐潮風ファームを設立し、畜産、堆肥、耕種の三部門で事業を行っていました。畜産部門では、企業参入促進モデル事業として5千万円の事業費で、繁殖牛10頭を導入し、給餌場、堆肥舎を整備し、その後補助事業を利用し現在は、繁殖牛83頭、肥育202頭となっています。年間の出荷頭数は85頭で、東京食肉市場での肉質格付A-5、4の占める割合は94%となっており、年間140頭を出荷目標にしています。「島生まれ・島育ち・隠岐牛」のブランドを守っていました。

堆肥部門は、工事廃材を利用した堆肥製造販売。耕種部門では水稲、園芸作物を生産していました。

また少子化対策、U・Iターン対策、自立のまちづくりについても研修してきましたが、結婚祝金20万円、出産祝金最高100万円の支給、妊婦出産にかかる交通費の助成等(職員組合申し出による給与カット分が財源化)、東京都で海士町のPR放映の結果、3年間で72世帯のIターンがあったとのことでした。

和牛を飼育販売　隠岐潮風ファーム

自立のまちづくりについては、海士町は離島であるため、離島間の合併は困難であり、合併のメリットはないと判断し、自立の道を選択したとのことでした。行財政改革により守りを固め、攻めの方策として新たな産業に挑戦していました。

全科予約制で待ち時間無しの診療

奥出雲町は人口1万5千8百人の町でしたが、ケーブルテレビ施設を整備し、デジタル化に対応した「テレビ」「有線放送電話」「高速インターネットサービス」を提供する。総事業費29億7千万円、加入者負担3万円、利用者月額千30円でした。

町立奥出雲病院は、電子カルテシステムを導入し、全科予約制で電話でも予約可能で来院時には待ち時間もなくスムーズな診療や検査ができると好評とのことでした。病室には電話・金庫・冷蔵庫・トイレ・浴室が設置されており入院患者に配慮した設備と快適に治療に専念できる配慮がなされおりました。

また第三セクター(有)奥出雲椎茸では、農家から搬入された椎茸は、その場で選別されて、規格別に予冷庫に保管された段階で、農家の販売金額が決定される仕組みとなっておりました。また、原木の調達は森林組合で行い、原木を加工する工場、菌床に植菌する工場、そして、椎茸を選別する工場が隣接する場所に整備されておりました。農家で廃棄する椎茸の菌床を堆肥センターへ、堆肥センターで生産された堆肥は農家に還元するなど、安定した生産と雇用の場を作る循環型の仕組みが出来ており、町の取組や発想に深く感銘を受けました。

視察した海士町、奥出雲町も創意工夫しながら少子化対策や若者定住対策など活発な行政運営を行っておりましたが、地方交付税の減少により両町とも財政は厳しく、三役、議員、職員とも給与をカットしており、離島や中山間地の町村の厳しさを再認識した研修でありました。

町立奥出雲病院受付カウンター

総務教民常任委員会研修レポート

研修日程　平成19年6月24日～27日
研 修 先　北海道浜中町・本別町

全戸、成分分析で高品質牛乳生産

工場長は以前葛巻にいらした齋藤孝嗣さん

浜中町は北海道の道東にある酪農と漁業のまち。釧路から東へ車で90分。霧多布(きりたっぷ)湿原を有する人口約7千人、乳牛2万3千頭、生乳年間生産量9万3千トン、高梨乳業(株)北海道工場がある町です。

浜中町では、農協や町を中心に関係機関団体が協力して新規就農を希望する方々をバックアップする支援システムが作られており様々な取り組みがなされ「ゆとりある安定した酪農生活」を目標に展開されています。

昭和56年農協と組合員の酪農家では全国に先駆けて「浜中町酪農技術センター」を設立しました。このセンターでは、全戸の牛、草、土のデータ、集乳時の乳成分が集積され、このデータをもとに飼料管理を工夫してより良い牛乳生産に努力していました。

(有)就農者研修牧場は、平成3年に町と農協により設立され、新規就農者を育成するための施設で近代的な設備のもと、効率的な酪農技術を習得できる体制を整えていました。16年に農協から独立し有限会社となり現在まで23組(19年3月現在)就農されています。

その後、高梨乳業(株)を視察しました。130トンタンクが立ち並び壮観です。主に加工製品を作っています。研修成果を今後の酪農行政に役立てて参ります。

開かれた信頼される病院経営を実現

本別町は帯広の東、車で60分、人口9千人の日本一の豆の産地です。ここでは、国保病院の運営について研修しました。

12年病院の新築移転を契機に体質改善の推進に取り組み「組織風土診断」を外部委託し徹底的な洗い直しを行った。これにより経営方針・目標が明確になり職場の改善活動も自発的なものとなりました。アンケート調査を何度も行い改善の評価を確認しながら更なる改革を実施しています。その一つが患者さまの権利章典です。もう一つが病院ボランティア養成講座です。開かれた信頼される病院を目指し、町民と病院職員が医療等に関わる生涯学習をする場です。13年9月から月2回の開催で19年3月までに百6回実施しました。毎回40人～50人で5千4百人の参加者です。リピーターが多く評価されています。

ここでも医師不足は深刻な問題ですが町長、病院事務長の懸命の努力で常勤医師6人(内科・外科・耳鼻咽喉科・人工透析)で、小児科・精神科・眼科は週1回の診療です。この取り組みを町民に伝え自らを評価すべく第三者機関の評価を受けて16年1月「病院医療機能評価認定」を取得しました。(道内の町立病院初)

認定証と新聞掲載記事

このほか病院白書作成に取り組み町民の信頼を集めています。

このような取り組みは、葛巻町でも行われていますが、町民を巻き込んでいるという点と一歩踏み出した患者さま〈のサービスという点で大きな違いが現れていると思いました。行政、病院、議会が協力し合い安心して暮らせる町づくりに取り組む思いを新たにしました。

(各委員会の一人当たりの研修旅費公費負担は4万円)